

近衛文麿公関係資料目録

リール

国際連盟の精神について

貴族院論 (三二二九 慶大講演)

元老重臣と余

二二六事件について

防共協定草案

第一次内閣の理念

日支関係の歴史(明治以後)と大東亜新秩序の理念

大赦恩詔謹註案

五相会議について

阿部大使壮行辞

新体制関係覚書 三通

翼賛会関係覚書

ソ連の東亜に対する意図

陳公博会谈録(一八四一一)

国立国会図書館

五三国同盟に就て

自主的と云ふ事

米爵拜辞上奏文原稿 附別稿

憲法改正案骨子

西園寺公宛書翰

鉛筆書き手記一束(終戦直前と余)

我国貴族院の採るべき態度

日米関係諸問題に関する米國諸方面の意見概要

ハウス大佐に答ふ 英米本位の平和主義を排す

ハウス大佐「国際間に於けるニイタールの必要」についての感想

「東亜週報」発刊に際して

大敵について

池田氏に交渉して

阿部内閣の成立 附関係覚書

雑

雑 (独伊軸強化の問題)

米国首脳との直談判

商工大臣 企画院総裁の更迭

政変余聞

国策についての上奏文 (二五七)

統帥<sup>位</sup>と国務

支那事変について (一九四)

内大臣論

拝謁上奏の覚書 (三〇、二、一四)

終戦直前の日ソ話し合

和平交渉に関する要綱

近衛国務相 マックマサー元帥会談録 (二〇一〇四)

遺書 附通隆氏手記

番外 日米交渉手記 二包

リール二

第一次内閣日記 (一三六)

滿洲日々新聞「恩赦の詔書誤死」 (一三七・一五)

国立国会図書館

日支媾和斡旋に関する駐日独逸大使通牒並回答修正案

(一三三・七)

(一三二・五)

対支媾和問題に対する所見 筆者 日時不明 (一三一・?)

政務指導に関し陸軍次官の北支那方面軍との連絡事項 軍務課 (一三二・六)

支那事変処理根本方針 (御前会議議題) (一三一)

御前会議に於ける大本営陸軍部報告 (一三一)

在本邦支那外交機関及華僑処理方針 (一三一)

第一回御前会議経過 (一三一・一〇)

支那事変対策 大川周明 (三三・一一)

帝国政府声明案 (三三・一)

独逸政府を仲介とする日支和平交渉経緯 (三三・一一〇)

英国との協力促進<sup>策</sup>案に関する一参考 (三三・二〇)

対支委員会並に対支事務局設置趣旨(室制等) (三三・三〇)

対支機関設置方針案 (三三・三三)

東亜省試案 (三四・一三)

対支院設置の件 (三四・二四)

国立国会図書館

対支委員会並に対支事務局設置趣旨(参議会記録) (三四・二八)

対支行政事務処理の爲中央行政機関設置の件(閣議案) (三五・一六)

附

中支那金融緊急対策他(五相會議決定) (三七・五)

支那現中央政府屈伏の場合の対策(五相會議決定) (三七・八)

支那現中央政府にして屈伏せざる場合の対策(五相會議決定) (三七・八)

時局に伴ひ対支謀略(五相會議決定) (三七・八)

支那新中央政府樹立指導方針(五相會議決定) (三七・一五)

物資の統制運用について (三五・九)

現時局に於ける基本事実とその対策 (三六・七)

支那事变指導に関する説明 陸軍大臣 (三六七)

対策私案(筆者 日時不明) (三)

五相会議議題に関する件 (三六二)

五相会議決定事項 (三六四)

時局外交に関する陸軍の希望 陸軍省 (三七三)

五相会議決定事項 (三七二)

第二委員会中間報告 (三七五)

日支新関係調整要綱 (三八二)

— 国立国会図書館 —

時局宣伝処理に関する件 (三八二)

共支中央準備銀行 共支那産業開発会社 (三九)

対支事務局官制案 (三八二)

概観 松井大将 (三八三)

反共救国運動実践要領 (三九五)

広東出兵に関する外務当局の意見 (三九五)

対支時局処理機関設置に関する件 (三九六)

聯合委員会樹立要綱 五相会議決定 (三九九)

对支中央機関試案(陸軍案)に付て

(一三九・一三)

小林中将宛 宇垣一成書簡 錢永銘 在月空の件

(一三九・一六)

支那事变対策草案 昭和研究会

(一三九・三〇)

国際聯盟理事会採択報告

(一三九・三〇)

時局処理方針内示に関する件

(一三九・三〇)

広州処理方針(綱領のみ)台湾總督府

(一三九)

汕頭処理方針(綱領のみ) "

(一三九)

南支産業開発綱領(綱領のみ) "

(一三九)

国立国会図書館

海南島処理方針(綱領のみ)台湾總督府

(一三九)

要注意事項 末次大将

(一三九・三三)

支那に於ける門戸開放機会均等主義に関する我新方針決定の件 条約

(一三・一〇)

日支新關係調整方針案に関する御説明他(統帥部)

(一三・一四)

近衛總理クレーギー英國大使会谈要旨

(一三・一四・一)

意見具申 松岡洋右 二通

(一四・三)

〃

(一四・四・一三)

時局の動向と收拾策(小川愛次郎) (一四九二四)

幣原男爵の回想(ワシントン会議 ニネフ会談 広東政府との同盟案) (一五二一八)

汪精衛声明発表に伴ふ南支方面に於ける情勢の変化

事変処理方策 小川愛次郎 (一五三二五)

支那側の和平条件と之に対処すべき日本の態度 小川愛次郎 (一五三五)

日本外交協会ニテ新政府成立と列国の動向 (一五四)

日中戦争の見通しについて

国立国会図書館

汪主席発近衛首相宛書翰 (一六一〇)

和平工作に関するメモと電文 (一五二二二)

政府声明案 (一五二二)

大東亜新秩序建設の国策の真義 (~~一五~~)

事変処理外交に関する若干の意見

東亜新秩序についてのメモ

新秩序建設の歴史と現状

新秩序と英米関係に関する厚見(矢部)



大東亞新秩序の理念とその実現の方途

情勢判断

国務と統帥とに<sup>計</sup>ついて

汪精衛の上海におけるラジオ放送

汪精衛の広東におけるラジオ放送

幣原氏の広東政府との同盟についての回顧

和議建言序説覚書

(一六〇)

帝国外交方針(毛筆本、タイプ版)

(一六〇七)

国立国会図書館

日独伊三国提携の強化に関する件

防共協定強化方針案(仮称)

日独政治的強化方針要領、日伊政治的方針要領

日独及日伊間政治的関係強化に関する方針案(四通)及び日独伊防共協定研究方針(四通)

(一三・七・一九)

覚(外務事務官の宇垣外相との会見内容)

(一三・七・三〇)

対英懸案解決に関する件(四通)

(一三・八・一九)

日独伊防共協定強化に関する件(前文案等)(四通)

(一三・八・二六)

陸軍次官発大島、小島両武官宛電報号 (一三、八、二九)

日独伊協定の件、及び日独伊枢軸強化方の件(宇垣→東郷) (一三、八、三一)

対英感情は何故に悪化したか(改三)(小野田中佐の書込み) (一三、九、一)

日独伊問題新外務案に対する改正意見(軍令部) (一三、九、二)

新外務案に対する海軍改正意見 (一三、九、四)

日、独、伊三国軍事協定に関する件(陸軍修正案) (一三、一〇、二五)

日独伊防共協定強化に関する件(五相會議決定) (一三、一一、一一)

在伊武官発次長宛電(伊電第三七三号) (一三、一一、一着)

国立国会図書館

猶太人対策要綱 (一三、一二、一六)

滿洲国及捷牙利の防共協定参加方に関する件(五相會議決定案) (一三、一二、一三)

在伊陸軍武官発参謀次長宛電(伊電第三八三号) (一三、一二、一六)

外務案実施詠解(仮称) (一三、一二、一九)

我対独伊と対英米関係 (一四、一、三一)

西班牙国の共産「イターナショナル」に対する協定参加に関する議定書  
締結の件、審査報告及び各国語議定書 (一四、三、二〇)

日独伊三国協定に対する陸海軍の気持

陸海軍省主務者合談に関する陸海軍同文覚書 (四・五・一五)

五相会議決定に関する海軍側の主張 (四・五・一九)

白鳥大使発第一三九号 (四・五・二〇)

(防共協定無条件強化)意見書

大島大使発(無番号) (四・五・二二)

リール 四

a 大島大使発第五四四号 (四・六・一五)

b 大島大使発第五四八号 (六・一六)

c 大島大使発第五五一号 (六・一六)

国立国会図書館

a 白鳥大使発第一九九号 (四・七・一三)

b 白鳥大使発第一九二号 (四・七・一三)

c 白鳥大使発 (四・七・一一)

d 白鳥大使発 (四・七・一四)

歐洲戦争に伴う当面の対外施策 (四・一〇・四)

a 在京独逸国大使より外務大臣宛来翰案

b 外務大臣より在京独逸国大使宛往翰案

c Personal letter of the German Ambassador to His.

Excellency the Imperial Japanese Foreign Minister (Draft)

d 外務大臣より在京独逸国大使宛往翰案

e 在京独逸国大使より外務大臣宛来翰案

f Letter from the German Ambassador to the Foreign Minister (Draft)

g Letter from the Foreign Minister to the German Ambassador (Draft)

h 外務大臣より在京独逸国大使宛往翰案

i 在京独逸国大使より外務大臣宛来翰案

j Letter from the German Ambassador to the Foreign Minister (Draft)

k Letter from the Foreign Minister to the German Minister (Draft)

日独伊三国条約締結に関する件(御前会議議題) (一五九一九)

日本の「指導的地位」並に「独伊との関係に就いて」(スガ本ニ牛稿一)

三国同盟締結の趣旨

事変を迅速且つ有利に終熄せしむべき方途 (一五七一九)

日ソ漁業条約効力延長に関する議定書についての枢密院審査報告

(一五六一九)

枢密院會議に提出された右についての一件書類 (一五六一三)

松岡・モロトフ往復書翰 (一六〇一三)

タートルから松岡あてのメッセージ (一六〇一三)

石英文

日ソ中立条約内容に関する説明 (一六〇一)

日ソ兩國が中立条約を締結せる各自の目的 (一六〇一)

オト大使に対する松岡外相通告覚

独ソ戦争に関する対独通告案 (一六〇一)

独ノ戦争に関する対ノ回答案

(六六)

独ノ戦々況(ソ連発表)

a 建川大使発 第八四八号

(七四)

b 同 第八五四号

(七四)

c 在京ソ連大使に対する外相回答案(前出)

対ソ外交交渉要綱(連綿会議決定)

(八四)

日ソ間の現勢に対し帝国内の採るべき措置に関する件(連綿会議決定)

(八六)

オト大使に対する外相通告覚

(六)

a 松岡外相発 リンペン外相宛電報

(五五)

b リンペン外相発 松岡外相宛電報

(五九)

陸海軍打診に関する覚書 附大養健発東翰(五六一七)

及組閣案三通

松岡覚書

世界の变局と帝国の方途

組閣中四柱会議決定 附組閣声明

対外施策要綱比較

時局処理要綱 自筆書き込みあり

(五七二七)

第二次内閣総辞職上奏文 附昭和二年七月政変に関する覚

附新内閣との初連絡会議に於て統帥部よりの要望事項 (一六七・二一)

昭和二年度物資動員計画概要

戦争遂行に関する物資動員上よりの要望 (一六七・二九)

物資動員計画の改訂に付て (一五二・一七)

第三次近衛内閣総辞職上奏文

第二次組閣直前日誌

第三次、第二次内閣日誌 四種

国立国会図書館

第二次第三次近衛内閣重要決定一覽

南方外地統治組織拡充強化方策 台湾總督府(一三・九月)

蘭印農業自衛移民計画 (一五八・一六)

浅田駐タイ公使発 第二九九号 (一五二・一四)

同 第三〇三号 (一五二・一九)

泰国の失地恢復斡旋に関連する対泰並に対仏施策の件 (一五二・二一)

泰及び仏印に対し採るべき帝国の措置 連絡会議 (一六一・一七申合せ含む) (一五二・二六)

泰仏印紛争調停に関する緊急処理要綱 大本営政府連絡会議  
(一六・一・一九)

対仏印・泰施策要綱 連絡会議 (一六・二・一)

タイ・仏印国境紛争調停要領 連絡総談会 (一六・二・六)

タイ・仏印国境紛争調停成立に至る迄の経緯 (一六・三・一一)

日蘭<sup>(印)</sup>会商について最後の要求 (一六年春か)

西南洋方面外交問題 (一六年夏か)

ビルマ謀略

国立国会図書館

泰に関する対英交渉要綱 連絡会議 (一六・八・一五)

井川忠雄発電信 滞米中 (一六・五・一一)

ソウルシヨ(?)覚書

四月二十日修正案 西軍部及公外

五月三日修正案 赤字軍部 黒字松岡外相

磯田武官発 第一〇一号 (一六・五・一一)

岩畔大佐発第一〇二号 (一六・五・一一)

松岡外相メッセージ及別電 (一六・五・一三)

大島大使発 第五六七号

(一六五・二〇)

同

第五七五号

(一六五・二一)

五月三十一日米国案 及米側の主なる修正

六月二十四日米国案

近衛首相回答書

(一六・七・七)

<sup>作</sup>豊田外相米人記者会見記事

(一六・七・二一)

野村大使発

(一六・八・三一)

米側質問書

(一六・九・二二)

国立国会図書館

次官発在独伊大使宛

(一六・一〇・一及七・三一)

グルー大使宛書翰

(一六・一〇・一七)

グルー大使宛返翰

(一六・一〇・一七)

横山武官発 第三回八番

松岡外相デラントイ会談記録

独逸政府意見要望

野村ハル会談要旨

独蘇開戦と日米談合の停頓



日米經濟關係 十六年八月

協定前文

日米兩國案對比表

日本修正案、米國六月二十四日案比較

在外使臣電一束

アメリカに於ける日米交渉の經過 岩畔豪雄述 (三・五・一〇)

四原則研究

九国条約に対する我國の態度

国立国会図書館

リール 五

対米方策小見 中川 (四・六・一)

対米外交施策案 海軍案 (四・一〇・一〇)

日米太平洋平和協約案 日米「原則的協定案

現下の対米政策の重要性 高木八尺 (一六・四・三〇)

大東亜共栄圏建設と対米外交

日米交渉の經過

グルー大使演説に対する回答案 (一五年カ)

敵国日本 ヒュー・ヒュース

孫科「日本天皇を消滅せしめよ」 (一八・一〇・一〇)

蔣主席元旦全国軍民に告ぐるの書 (一九・一・一)

重慶十一中全會宣言 (一九年)

キダスグリ・スミス「敗戦日本に対する米國政府の計画」(アメリカ・マーキュリー)  
(一九年)

「ソ」聯の対政進出—其の意図— —其の東進への志向—  
(一九・二・一〇)

「ソ」聯の世界革命理論に関する資料 (一九・三・九)

「エー・ジュー・コフ」日本帝国主義と太平洋に於ける戦争(抄訳)  
(一九・四・一三)

米國に於ける戦後日本処理論 (一九・六)

日本共産党と国体変革 (一九・八・四)

重ねて当面の対策について (一九・九・一)

a. 「ブル」の第一次対日降伏勧告 (一九・一〇・二七)

b. 「ブル」の第二次対日降伏勧告 (一九・一一・一七)

c. 「ブル」の第三次対日降伏勧告 (一九・一二・三一)

d. 「ブル」の対日処分案 (一九・一二・二二)

e. 太平洋問題調査会の日本処分案

米国に於ける帝国国体論(未定稿)

(10・三・1)

法令全書抜萃

(詔書)改案

詔書案(第一二三案)

詔書案(内閣用箋使用四通、和紙使用一通、何れも先筆)

刑措(先筆本、ペン書各一通)

大赦令(案)

近衛首相謹誌(先筆書三通、ペン書八通)

軍部内の派閥と直接行動

二二六事件関係者の恩赦(草稿及び清書)

愛国運動分派系統表

(10・九・11)

特殊事件調(三通)

(11・七・10)

告発書(三月事件、十月事件)

(11・11・10)

不総計画事件校挙に関する件(神兵隊前田一派関係)

(15・七・五)

滅賊討奸の書(神兵隊前田一派関係)

(15・七・五)

企画院関係左翼分子調

左翼演劇運動関係者一斉検挙の件

(一五八一九)

新劇運動の取締

某左翼転向者の軍に対する意見書

国策についての上奏文

時局の変遷と政府の指導に関する質問趣意書(尾崎行雄君)(多々全印刷)

尾崎氏質問趣意書外務省関係事項に対する回答案

時局の変遷と政府の指導に関する質問に対する答弁案(六一七森山誠案)

昭和五年八月一日外交に関する建言

国立国会図書館

地方長官会議に於ける近衛内閣総理大臣訓示案

内外政治経済問題に関する説明(昭和一六年)

第一次内閣改造諸案

国内政治結社の方向調(昭和一六年?)

政治勢力各派図解(三通)

金鵒勲章年金廃止に関する件(想定問題及答案二部関係資料一部、  
勅令説明二部)

外務省調査部第二課、ナチス政治組織

a. 对支政策私見

b. 国内問題

大正八年九月二日 南遊記(朝鮮鉱業会総会講演)

リール六

五相會議連絡委員会設置に関する件 (三・一〇・五)

土肥原中将に与ふる指示(五相會議決定) (三・一〇・七)

帝国と国際聯盟諸機関との協力の状況 (三・一〇・八)

漢口陥落を契機とする北支建設要領 (三・一〇)

時局收拾対策案(同文三通) (三・一〇・五)

国立国会図書館

總裁訓辭要旨 南滿洲鐵道株式会社 (三・一〇・一〇)

漢口戦後の新事態に対処すべき国民の覚悟を促すべき政府の声明  
(昭和研究会事務局) (三・一〇・二六)

外務大臣説明案 (三・一〇・二六)

轉換期に於る事変対策 (三・一〇・二七)

独伊に対し優先的待遇供与に関する件(五相會議決定)  
(三・一〇・二八)

国家總動員強化に関する件(五相會議議案) (三・一〇・二八)

時局處理に関する件 内閣 (三・一〇)

支那新中央政府樹立工作要領 陸軍省 (三・一一四)

支那事変の現段階に於ける帝国の外交方策 (三・一一)

近衛声明発出に関する台湾軍参謀長電報 (三・一一八)

新南群島の所屬確定に関する件 (三・一一九)

北支經濟開發方針 第三委員会 (三・一二六)

汪兆銘工作に関する香港機關電報 (三・一二二)

事変善後処理要領及支那再建試案大綱 松井石根 (三・?)

事変対処要綱 (甲) (三・?)

王子惠關係意見書 筆者 日時不明 (三・?)

「首相の談話」に伴ふ及響に対する措置 (三・一一)

東亜新秩序に関する政府声明案 日時不明 (三・?)

汪兆銘国民党要人に致す密函

国策大綱提案理由

伝式説氏の汪兆銘に関する報告 (四・一二六)

中支宗教大同連盟要覽 (四・五)

汪工作に関する田代総領事発電 (四・五三)

中国々民党第六次全国代表大会宣言

(一四・六)

興亜院の指導精神に就て

(一四・一〇一)

現下情勢に於ける英園利用方策

(一四・一〇二)

大東亜共栄圏についての意見

東亜問題解決策要綱

新政府の性格について

解決中日問題草案綱目

為近衛公代壽解決中国事変之意見書(民報社長)

真正孫文主義と全民主義

興亜院の東亜新秩序についてのパンフレット

(一五・六一)

現地交渉成立案の成果に就て 軍務課

(一五・一四)

特命全權大使阿部信行に于ける訓令(案)

(一五・中期)

興亜院業務に関する状況報告

(一五・七一)

連絡委員会の大使に対する訓令案(甲)

(一五・七二五)

国民精神総動員再組織の件

(一三・七一〇)

内閣情報部長期建設対処のための国民精神総動員強化方策案

(一三・一一二六)

企画院 時局新段階に対する国内体制強化に関する件 (一三・一一・四)

所謂「国民再編成」としての国民精神総動員中央聯盟改組に対する  
官方側機構(案)

国民協力に関する件

挙国的に大政党組織結成に關し着意すべき事項(三部)(一三・一〇・一八)

昭和研究会事務局 国民精神総動員運動を如何に出直さしむ可き (一三・一〇)

大日本皇民会宣言、綱領、会則

大日本帝國国民協議会草案

日本帝國協議会組織大綱(案)

(一) 報国会に関する件(三部)

大日本国民党役員名簿

「興亞団体聯合会」運営に関する意見書

「興亞団体聯合会」運営に関する第二次意見書

興亞団体聯合会役員予定名簿

国民精神総動員運動と中央聯盟に関する意見の概要

綱領、党規(党名不名)、大日本党部綱領、党規(封筒入)



リール七

新東亜建設国民同盟の趣旨及要綱(内務省案)

青少年訓練審議会を新設する件

青少年訓練に関する理念

青少年訓練幹部錬成所創設要綱

青少年訓練審議会事務局要員及び幹部錬成所職員候補者名簿

昭和研究会事務局、国民組織聯盟案

国防国家整備方針

国立国会図書館

東亜経綸同志会革新体制整備に関する私案

(一五六)

国家新体制組織方略

新体制に関する方針

新体制に関する演説

新党結成方針に関するメモ

国民総動員本部組織図表及び国民新体制図表

新体制組織の一考察(突撃隊構成の要を説く)

新党推進団の結成

対政党工作工項

金光、武藤軍務局長会談内容(六月十日夜星ヶ岡)

運動開始順序及び中央本部の結成に就いて

組織大綱

新組織結成次第及び総理決意表明要旨

矢部貞治、新政治体制とは(週刊朝日)

新党結成に関するメモ

新体制諸案に関するメモ

国立国会図書館

「新党」の文字訂正についてのメモ

各部局の構成

新体制青年部長人事に関するメモ

新体制準備会についての談話(試稿)(手書)

新体制準備会について(試稿)(手書)

高度の政治性(手書)

愚見の評論(手書)

新体制準備会について(手書)

新体制準備会について(1)~(5) (タイポ)

新体制宣言草稿

聖賛会会員に関するメモ

大政翼賛会役員名簿メモ

大政翼賛会発会式宣言

大政翼賛会役員一覧表(国民新聞)

大政翼賛会の性格に関する政府所見

大政翼賛会の性格に関する政府見解

国立国会図書館

翼賛の意味についてのメモ

大政翼賛会役員名簿メモ

井田磐楠 大政翼賛運動実践要項の起草に就て所見

(12) 大政翼賛会衆議院関係組織に関する管見覚書

大政翼賛会内会務の統制に就て

翼賛会組織図

大政翼賛会改革に関する意見書

昭一六四、二 大政翼賛会改組案

経済新体制実施に関する意見書

渡辺精吉郎 経済革新意見概綱

(一五九)

久原秀之助 財政政策に関する意見

田中鉄三郎 最近の経済界に就て

(一五〇・一一)

昭和研究会事務局 現下の労働事情に関する覚書

(一五四)

日本経済再編成試案

我国経済の現状

経済統制法令違反者に対する大赦令奏請に関する件

国立国会図書館

(1)(2) 経済新体制確立要綱 (最初原案及び最終案) (一五二)

財務及原価に関する諸準則制定に関する件

(一六一)

第五次特別輸入に関する件

(一六一)

財政金融基本方策要綱

(一六一〇)

財政金融基本方策要綱決定に就て

「金融運行の鈍化を警戒」等

(一六一〇)

政経経済研究会官界一新に関する要望

(一六一六)

日本戦争経済力

(一六一)

国家総動員強化に関する件

(三・一〇・二)

国家総動員法中改正法律案提案理由説明案

昭和五年度電力動員計画参考資料

(一五・六・一三)

数学の刷新振興

・来翰、来信等(番外)

・伝記資料(番外)

リール八

法制局議会制度審議会仮想問答

(三・六・二〇)

国立国会図書館

衆議院議員選挙制度改正要綱(未定稿)

衆議院議員選挙制度改正要綱案

衆議院議員選挙制度改正要綱(案)

小林順一郎選挙法改正に就て

(一五・二・一〇)

選挙法改正案中選挙人資格を家に置き基の世帯主として投票に  
当らねばべき事」の件 賛成氏名(才一回)

(一五・二・二〇)

大政翼賛会議会議会局臨時選挙制度調査部、衆議院議員選挙  
制度改革に関する意見書

(一五・二・二九)

選挙権者を戸主世帯主何れに限定するを相当とするに付ての意見(一五・二・三五)

衆議院議員候補者推薦制度に就て

家長選挙制度の是非

文官制度改正に関する綴(一三年)

枢密院奏任文官特別任用令改正の件審査報告(一五、一、八)

米内内閣総理大臣説明要領

官吏制度改革要綱(閣僚小委員会決定) (一五、一、六)

官吏制度改革要綱(新聞発表)

官吏制度改正に関する現内閣案と米内内閣案との相違点要領(一五、九、三)

国立国会図書館

法制局文官任用令新旧対照 (一五、九、三)

法制局奏任文官特別任用令新旧対照 (一五、九、三)

法政局高等試験令新旧対照 (一五、九、三)

文官制度改正に関する勅令案近衛内閣総理大臣説明 (一五、一〇、一)

文官制度改正に関する勅令案近衛内閣総理大臣説明 (一五、一〇、八)

枢密院審査委員会内閣総理大臣の答弁を求められた事項(一五、一〇、二)

昭和研究会内閣制度改革(試案) (一三、四)

内閣制度の根本改革首相の意図(東見字) (一三、七、二五)

近衛無任所大臣の国法上の地位等に関する件

(一四一三〇)

一般に無任所大臣なるものについて

無任所大臣の職務権限と他の国务大臣との関係

企画院 企画院拡充、貿易省設置、壮年団創設に関する件

紀元二千六百年関係事項参照書類Ⅰ

紀元二千六百年奉祝会関係参照書類Ⅱ

紀元二千六百年関係事項Ⅲ

紀元二千六百年奉祝会役員総会に於ける近衛会長の挨拶

(一五一二五)

紀元二千六百年奉祝会準備会に於ける挨拶

a 紀元二千六百年奉祝銃後奉公祈誓大会趣旨その他、又、会次第宣誓書

(一五六一九)

発表

b 紀元二千六百年奉祝銃後奉公祈誓大会時間表その他

(一五六一九)

c 紀元二千六百年奉祝銃後奉公祈誓大会参加団体別員数表

(一五六一九)

d 紀元二千六百年奉祝銃後奉公祈誓大会宣誓書案

(一五二二四)

紀元二千六百年奉祝海外同胞東京大会式辞

枢密院会議資料

a 軍事保護院官制

b 軍事保護院の職員の特任任用に関する件

c 大正三年勅令第三百六十二号任用年限又は官等の初叙陞叙の規定を

適用せざる文官に関する件中改正の件

ル 枢密院書記官會議通知

第七六回帝國議會に於ける内閣總理大臣演説案(三部)

基本國策要綱に關する近衛首相談話についての資料

リール九

米國遍遊日記

(一四)

總辭職當時の模様

(一四一)

對支金融政策案 參謀本部

(一三三・二九)

國家總動員態勢整備に關する件 企劃院用紙

(一三五)

国立国会図書館

五相會議決定事項(追補)

(三七)

a 今後の支那事變指導方針

(六二四)

b 支那現中央政府屈伏の場合の對策

(七八)

c 支那現中央政府にして屈伏せざる場合の對策

(七八)

d 時局に伴ふ對支謀略

(七八)

e 支那政權内面指導大綱

(七一九)

對新中央政府中心思想

(一五二七)

汪より近衛宛 中國統一政府樹立の必要につき書簡

(四二四)

全右

歐洲大戰勃発直後の所感報雁書簡

(四九二四)

全右

東亞聯盟運動の展開に關し書簡及十二月廿四日

近衛返簡字

(一五二二四)



汪より青木顧問宛、頭山禱との会談内容確認方の書簡 (一六六二四)

汪より近衛宛、日米交渉の新国民政府に対する悪影響防止に  
つき書簡、付託文 (一六一〇五)

全右 近衛辞職に関し電報 (一六一〇二〇)

東京に於ける汪、近衛会見筆談、汪筆蹟。 (四六)

近衛声明に対する斎藤隆夫演説

時局処理に関する件 (三六)

聯合委員合樹立要綱 (三九九)

時局処理方策内示に関する件 (三三〇一〇)

事変の最終処理方式、共同宣言案

五相会議決定 日支新関係調整要綱 (三二二五)

日支新関係調整方針 御前会議案 (三二二五)

臨時政府成立一週年に対する近衛首相祝電 (三二二四)

支那事変国策要綱 (三二二四)

五相会議決定 新中央政府樹立方針 (四六六)

付別紙 「汪」工作指導腹案 二通

既成政權に対する指導腹案、汪來日談接用 (四六七)

時局收拾具体弁法に対する所見 (四六)

中央政務會議指導要領 興亞院會議決定 (四一一)

独ノ戦々況

建川大使発 第七三二号 (四六二二)

全右 第七三九号 (四六二三)

全右 第七四二号 (四六二四)

全右 第七四八号 (四六二五)

全右 第七五七号 (四六二六)

全右 第七七四号 (四六二七)

全右 第七八九号 (四六二八)

全右 第八一九号 (四七一)

国立国会図書館

建川大使発 第八五〇号 (六七四)

日ソ中立条約、日ソ共同声明書 (六四三)

野村大使発 第二三三号 (六四七)

近衛外相発 野村大使宛 第七一号 (六四九)

野村大使発 第二四四号 (六五一)

松岡外相発 野村大使宛 第一九〇号 (六五三)

全右 第一九一号 (六五三)

全右 第二〇四号 (六五二)

松岡外相宛 野村大使宛 第二〇六号

(外. 五. 一三)

独逸政府意見

(外. 五. 一三)

独逸政府宛 在京独逸大使宛 訓令

(外. 五. 一七)

野村大使宛 第三七五号

(外. 六. 一)

全右 第三七八号

(外. 六. 九)

全右 第三七九号

(外. 六. 九)

全右 第三八〇号

(外. 六. 一〇)

松岡宛 野村大使宛

(外. 六. 一)

国立国会図書館

松岡宛 野村大使宛

(外. 七. 七)

野村大使宛 第四八九号

(外. 七. 九)

全右

(外. 七. 一四)

全右 第五三八号

(外. 七. 一七)

全右 第八九四号

(外. 一〇. 三)

説明資料

a 五月十日日本側対案

b 六月二十日米側対案及別紙甲号、乙号

吉田茂氏

馬場 恒吾氏

野村 吉三郎氏

松本 重治氏

矢部 貞治氏

金光 庸夫氏

石渡 莊太郎氏

(二一・一・一六)

東久邇 宮 稔彦王 二冊 (一部)

(二一・四・一三)

国立国会図書館

二一〇

東久邇 宮 稔彦王 二冊 (一部)

(二一・四・一三)

岡田 塔介氏

(二一・四・一五)

池田 成彬氏 二冊

(七一五)

宇垣 一成氏 三冊

(六一五)

酒井 鎬次氏 二冊

(六一六)

伊沢 多喜男氏

若槻 礼次郎氏

下園 狂吉氏

西郷 氏

富田健治氏 証言

(111-10-110)

高村 坂彦氏 又見

(111-11-111)

風見 章氏

(111-10-110-111)

諸氏会談 編纂委員会に於ける談話

(111-11-111)

後藤 隆之助氏

川田 鉄彌氏

国立国会図書館

狩野 君山博士筆墓誌銘

(111-11-111)

高田 保馬氏

リール二

日芽協議記録

(111-11-110)

防共枢軸強化問題経過覚

(111-11-110)

五相会談議題案

(111-11-111)

日独伊三国協定問題の経緯

(111-11-111)

三国協定の経緯 (其三)

(111-11-111)

a 三国条約締結一周年に際し「公伊首相宛近衛首相宛祝電(及電報) (六九二七)

b 「七」独大統領宛近衛総理宛祝電(及電報)

締結直前における建川大使発電

a 第四三一号 (四一〇)

b 第四三六号 (四二二)

c 第四四二号の一 (四三三)

d 第四四二号の二 (四三三)

e 第四四二号の三 (四三三)

f 四四三号 (四三二)

g 四四四号 (四三三)

日ノ外交調整交渉経過概要 (六四)

対独関係書類綴

a 大島大使発 第一五九号 (六一三五)

b 大島大使発 第一七四号 (六一六)

c 大島大使発 第二〇八号の一三 (三二)

d 参謀総長とオト大使との会談要旨 (三四)

e 軍令部次長とオト大使との会談要旨 (三四)

f 大島大使発 第三七一号 (三六一)

g 同 第三四二号 (四一)

h 同 第三四三号 (四一)

i 同 第四二三号 (四一六)

j 同 第四一八号 (四一六)

k 松岡外相宛大島大使宛 第四五八号 (五六一)

l 大島大使発 第六三六号 (六一四)

m 大島大使発 第六三八号 (六一五)

n 同 第六三九号 (六一五)

o 大島大使発 第七〇号

(六七)

p オト大使覚書(オトから松岡への通告要旨)

(六三)

q 大島大使発 第七六号

(六四)

r 同 第七五号

(六四)

s 同 第七八号

(六七)

t 同 第七九号

(六七)

u 同 第七九号

(六七)

v 在独武官発次長宛

(六八)

w オトから松岡に手交したリッパ外相申入れ

(六三)

x 松岡外相宛リッパ外相メッセジ仮訳

(七一)

y 大島大使発 第八五号

(七二)

z 同 第八六号

(七二)

オト大使に対する松岡外相通告覚(英文)

大島大使発 第九八号

(七八)

同 第九〇号

(七八)

同 第九二号

(七八)

同 第九四号

同 第九五号

(七九)

同 第一〇六号

(八二)

同 第一〇六号

(八五)

同 第一〇六号

(八五)

在武官発次官宛 情報判断

(八六)

建川大使発 第七七七号

(八七)

対仏印・泰地策要綱

連絡会議

(八八)

仏側が我最後調停案を承諾せざる場合の措置案 大本営(六・三・二)

南方施策促進に関する件 連絡会議(六・六・三)

南部仏印進駐の必要性について 大本営(六・六・三)

南方施策促進に関する件 連絡会議(六・六・三)

松岡外相宛ラライ宛 松岡宛アライ大使宛書翰

野村大使の提案に対する意見 陸軍省部局部長会議(六・四・二)

岩畔大佐宛 第九六号 (六・五・二)

野村大使宛 第三七三号 (六・五・七)

野村大使宛 第三一〇号 (六・五・一五)

支持暗号外第七号 (六・六・一一)

松岡外相意見要領 斎藤外交顧問筆記

同意見書 斎藤外務省顧問原文起草(三部)

横山武官宛第三八八番、第二五七番

渡辺工作①

現況 今井中佐 (三二二五)

〃 第三 今井中佐 (三二二二)



「退」工作指導腹案

(日六)

渡辺工作(第二期計画)

(日六)

近衛精衛来日に関する忖度要領

(日六)

”

(日六)

”

(日六)

平沼 汪会谈要領(東亞局)

(日六)

板垣 汪会谈要領

(日六)

米内 汪 ”

(日六)

国立国会図書館

石渡 汪会谈要領

(日六)

有田 汪 ”

(日六)

時局收拾の具体并法(渡辺携行)

(日六)

近衛 汪会谈要領

(日六)

板垣 汪第三次会谈要領

(日六)

中国側の提出せる意見

(日六)

事变処理と之に対する外交的措置

(日六)

日支新關係調整要綱の修正に付

(日六)

日支新聞係調整要綱の修正について

(四・一一・一)

〃

(四・一一・九)

〃

(〃)

日支新聞係調整に関する協議書類

(四・一六・三)

大島大使発 第九三三号

(七・六)

重大時局に直面して 放送原稿

(一・九・二)

井川忠雄発書翰

(五・三・七)

同

(五・三・四)

国立国会図書館

井川忠雄発書翰

(五・三・三)

同

(六・一・二)

同

(六・一・五)

同 滞米中

(六・三・四)

野村大使発 第三三四号

(六・四・七)

同

第三三五号

(六・七・七)

同

第三三七号

(六・四・七)

同

第三三九号

野村大使宛 第三三〇号

(天・五・二二)

同 第三五八号

(天・五・二九)

同 第三五四号

(天・五・三〇)

岩畔大使宛 第一五号

(天・六・三)

横山武官宛

(天・六・二八)

野村大使宛

(天・七・三)

野村大使宛

(天・七・七)

野村大使宛

(天・七・三〇)

国立国会図書館

少才児三覚書

(天・一〇・一三)

松岡外相宛野村大使宛

鮎川(三)工作一件

国内諸事件概要

国内諸事件にハル

直崎大將現世相に関する特別備忘録 (附)同英文翻訳

リール二三

貴族院問題にハル

興亜院の指導精神に就て

(一四二一)

支那事变処理要綱

(一五一一)

日華基本条約

(一五二一三)

a 日本国独逸国及伊太利国間三国条約

(一五九二五)

b Three Powers Pact between Japan, Germany and Italy

対独伊蘇交渉案要綱(三部) <sup>any</sup>

(一六一)

雑件

大島大使宛 第九六号

(一七六)

国立国会図書館

ソ連大使に対する外相回答案

(一八六)

a 基本国策要綱に基づく具体問題処理要綱

b 交通政策要綱

情勢の推移に伴う帝国々策要綱及同御説明

(一九六二)

帝国々策遂行要領

(一九六六)

帝国政府声明(南仏印進駐)

連総会議(一九七四)

ル大統領メッセージ

(一九七四)

同添附グループ大使書翰

野村、元大統領領會談記録

(一五七二四)

近衛メッセージ

米側覚書

Draft Treaty etc.

Outline of proposals

日米国交に関する部見

賀川工作一件

文官制度改革要綱(閣僚小委員会決定)

(一五八六)

国立国会図書館

「紀元二千六百年」一月号

(一五八一)

矢部貞裕、近衛新体制についての事記

新体制準備会について(手書)

" " (タイプ)

" " (タイプ)

(1) (3) " 第一二三案(タイプ)

(1) (3) " " "

東日社説「新体制組織と中核体」

(一五九五)

国家総動員法改正法案

枢密院會議資料「関東局に在籍教務部を設置する等の件」  
「関東局視学官特別任用令中改正の件」(計四点) a. b

リール四

枢密院會議資料「関東局に在籍教務部を設置する等の件」  
「関東局視学官特別任用令中改正の件」(計四点) c

枢密院會議資料「逓信省官制中改正の件、電気庁官制他  
委任文官特別任用令中改正の件」 a-I (計九点)

第七六回帝国議會國務大臣及政府委員一覽表

科学勲員協会役員案

国立国会図書館

石井ラッピング協定写

雑誌抜書 a 「東亜同文書院誌」

b 「支那」

c 「支那」

d 「支那」

大正五年二月 上海東亜同文書院視察旅行(支那所載)

a 昭和五年五月 「上海日報」切抜

b 昭和五年五月 「上海日報」切抜

c 昭和五年五月 「上海毎日新聞」切抜

d (昭和五年) 英字新聞切抜

昭和二十七年 「支那」切抜一括(日滿支重要時事記録)

昭和十四年

支那一切報 (東亞同文會記事)

昭和十四年

支那一切報

幼青年時代 (番外)